

グループホームけんとか(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 9 月 4 日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---------------------------------------|
| 事業所番号 | 1850180025 |
| 法人名 | 医療法人 穂仁会 |
| 事業所名 | グループホームけんとか |
| 所在地 | 福井県福井市乾徳4丁目4番18号 (電話) 0776-30-5100 |

| | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福井県福井市光陽2丁目3番22号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年7月11日 | 評価確定日 | 平成19年9月4日 |

【情報提供票より】 (19年6月1日 事業所記入)

(1)組織概要

| | | | |
|-------|---------------------|-------------------------|------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 12 年 5 月 11 日 | | |
| ユニット数 | 3 ユニット | 利用定員数計 | 27 人 |
| 職員数 | 33 人 | 常勤 28 人、非常勤 5 人、常勤換算 16 | |

(2)建物概要

| | | | |
|------|--------|-----|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 1 階建ての | 1 ~ | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|----------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 63,000 円 | その他の経費(月額) | 37,410 円 | |
| 敷金 | 有 (円) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有 (円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり | | 900 | 円 |

(4)利用者の概要 (6月1日 現在)

| | | | |
|------|-----------|---------|---------|
| 利用者数 | 27 名 | 男性 2 名 | 女性 25 名 |
| 要介護1 | 8 | 要介護2 | 13 |
| 要介護3 | 5 | 要介護4 | 1 |
| 要介護5 | 0 | 要支援2 | 0 |
| 年齢 | 平均 84.7 歳 | 最低 75 歳 | 最高 95 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 大滝病院、大滝外科胃腸科病院、早川歯科医院 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人として病院、老人保健施設、その他の介護保険事業所を有しており、医療と介護機能の充実した環境と連携の取れた運営体制は入居者や家族の安心に繋がっている。また、グループホームの実践も長く、管理者、職員共に認知症介護の意義を熟知し、取り組んでいる。事業所内外での研修体制も充実しており、職員の技術・資質向上にも繋がっている。ホーム内では入居者が自らの能力を十分に発揮しながら、生き生きと生活している様子がその表情や掲示されている趣味の物等からうかがうことができる。朝のお経をあげるボランティアを受け入れたり、近隣の子供たちが遊びに来やすい雰囲気など地域との交流も十分に図られており、また、町内会に加入したことにより、様々な活動への繋がりが促進されている。今後は日中の施設の廃止や、入眠前に入浴支援など、さらなる質の向上に向けた取り組みが多いに期待される。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回評価で指摘された課題点を踏まえて、地域交流の促進や家庭的雰囲気の創出、面会時間制限の改善などの取り組みが実践され、成果を挙げている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 自己評価に当たっては、一部の職員で行うことなく、全員で評価項目について検討し、作成されている。管理者や職員はグループホームの持つ意義を理解し、地域でのその人らしい生活が送れるよう支援がなされている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) |
| | 運営推進会議は原則月1回開催され、挙げられた課題等を改善に結び付けている。家族の参加も多く、ホームでの問題や介護保険の説明などホームを知ってもらう取り組みがなされている。今後は構成メンバーを公民館や自治会など多方面から参加を得て、意見や助言を取り入れるとともに、ホームが持つ認知症に関する情報を幅広く発信していく役割が求められる。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) |
| | 家族とは日常的なコミュニケーションを図りながらも、運営推進会議において、より家族からの意見、苦情、不安を受け入れる体制を話し合うなど、積極的な関係づくりが進められている。また、「にこやか通信」を季節ごとに発行し、家族に向け情報を発信している。このような取り組みもあって家族の訪問回数も多く、家族アンケートからもホームに訪問しやすく、話しやすい雰囲気が安心に繋がっていることがうかがえる。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 隣接するアパートの住民と、ホームの菜園で収穫した野菜のおすそ分けをしたり、ホームの行事に招待したりと交流を図っている。近隣の子ども達も頻りにホームへ遊びに来ている。また、公民館で開催される地域の行事に入居者がお手伝いに参加している。 |

2. 評価結果（詳細）

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------|----------|---|--|-------------------------|--|
| | | 理念に基づく運営 1 理念の共有 | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人ひとりが地域の中で、ゆったり楽しく人間らしく、尊厳を大切に生活するためにサービス提供がなされるよう理念がつくりあげられている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者はもとより、聞き取りを行った職員からも日頃の介護での理念に基づききめ細かな対応がなされていることが確認できた。また、月1回のミーティング後の接遇委員会でも問題点を話し合い、改善を図る取り組みがなされている。 | | |
| | | 2 地域との支えあい | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入しており、近所のお寺の法話会にも参加している。公民館行事の情報を得て、交通安全のマスコット作りへの参加など地域に向けた活動もしている。隣接するアパートの住民とはホームで取れた野菜をおすそ分けしたり、そうめん流しなど一緒に楽しみ、子ども達も自由に遊びに来ている。 | | |
| | | 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の評価で指摘された課題点も改善されており、今回の評価に当たっても全員で話し合い、自己評価を作成している。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は原則月1回開催されており、会議では、例えば苦情をより吸い上げる体制について話し合われ、意見箱を設置するなどの対応に反映されている。 | | 運営推進会議のメンバーが、ホーム・地域包括支援センター・民生委員・家族で構成されており、今後、自治会や公民館などから幅広い参加を得て、多方面の意見や助言を得るよう取り組み、それと同時にホームの持つ認知症介護の知識や情報を多方面へ発信する機会とされることが望まれる。 |
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市介護サービス事業者連絡会の機会に市職員との話し合いを持っていく。また、管理者が市の介護相談員を担うなど、公的な取り組みにも前向きである。 | | |
| | | 4 理念を実践するための体制 | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 年4回ホームでの活動の様子を載せた新聞を作成し、家族に知らせている。家族の訪問も頻繁にあり、職員もその都度コミュニケーションを取っている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 普段からの家族とのコミュニケーションや運営推進会議への家族の参加も多く、提案された意見の反映や課題に対する改善について、カンファレンスを開くなど積極的な対応がなされている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 異動は必要最小限にとどめるよう配慮されている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------|----------|--|--|-------------------------|--|
| | | 5 人材の育成と支援 | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内で開かれる月1回の勉強会は、多くの職員が参加できるよう時間帯や食事の提供などで配慮されている。また、外部研修の情報も職員に提供され、職員は積極的に参加し、研修の報告も他の職員と共有されている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム事業者で設けている協会に加入し、同業者との交流が持たれている。 | | 同業者との交流も管理者主体となっているので、一般職員レベルでも情報交換の機会がもてるよう検討されることを期待したい。 |
| | | 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 12 | 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居に当たっては本人と家族へ説明をし、納得してもらっている。また、家族には出来るだけ面会に来てもらい、帰宅なども取り入れながらホームに慣れてもらうよう取り組んでいる。 | | |
| | | 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 食事の準備や菜園での野菜作りなど、入居者と相談・協力しながら活動している。 | | |
| | | その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握 | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 最近の入居者から認知症高齢者ケアマネジメントセンター方式を取り入れ、アセスメントをさらに充実させていく予定である。また、日々の介護の場面でもうまく自分の思いを言葉にできない人にも前後の行動や表情から思いを汲み取るよう努めている。 | | |
| | | 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 日々の生活の中で把握された問題点をアセスメントシートに記入・分析し、家族の意向も反映させながら介護計画を作成し、入居者の生活の質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は定期的な見直しとともに、状態の変化に応じて家族の意向も踏まえ、随時見直しが行われている。 | | |
| | | 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | |
| 17 | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 入居者は法人内の施設を利用でき、売店での買い物などホームからの外出の機会に活かされている、また医療機関の併設は家族の安心に繋がっている。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----------|--|--|-------------------------|--|
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 法人の病院により入居者の健康は管理されているが、家族や入居者からの要望に応じて他の病院を受診する時にもホーム内での情報の提供がなされている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合の話し合いはなされているが、終末期についての取り決めはまだ出ていない。 | | 現在の入居者については、元気で活動的な方が多く、特に問題なく現在にいたっている。今後に向けた取り組みとして、住み慣れた環境での終末期のケアについての意志の確認は重要になり、早急な取り組みが求められる。 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ホーム便りでの入居者の写真掲載など家族からの了解の上で使用しており、便りの配布先も入居者の家族へ限定されている。訪問調査時、ホームでの入居者への声かけ等、対応は適切であった。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事前の時間帯でも、食事の準備をする人、掃除をしている人、縫い物をする人等各々自由な時間を過ごされていた。 | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備は、味付け、盛り付け、配膳と入居者も職員と一緒にしている。食事も入居者と職員が同じ物を食べながら、菜園で取れた野菜や味付けなどを話題に食事を楽しんでいる様子がうかがえた。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外は希望に応じて日勤帯であれば何時でも入浴ができるようになっている。夕方の時間帯での入浴についても検討されたことがあり、現在は希望者がいないとのことである。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 男性には力仕事、習字の堪能な人には献立のお品書き、その他折り紙、生け花と入居者は自分の趣味や、特技が発揮できるよう支援されている。入居者の作品はホーム内でさりげなく掲示されており、生活感が濃く出ており雰囲気ある空間が創出されている。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 法人の売店などへの買い物などホーム以外への外出も支援されている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 帰宅願望の強い人への対応では個別に職員がついて外出するなどの対応がなされており、草取りや掃除の時間帯は玄関や中庭への戸は開放されている。 | | さらに質の高いケアが可能なホームなので、不穏等への対応についても対処療法ではなく、根本的な原因を探り、解決に結び付く支援に期待したい。 |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期 待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|----------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の指定避難所への移動が困難なことから、災害時に隣接のケアセンターへ避難することや必要物資の手配等について実践的な取り決めがなされている。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は法人の管理栄養士により作成されており、栄養面でのバランスにも配慮されている。献立以外にも自家菜園で採れた食材を使って、入居者の意向も聞いて料理されている。水分、食事量もチェックされ、水分の補給も声かけにより促されている。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は、入居者が生けた季節の花が置かれ、廊下・食堂等の採光も適切である。廊下に置かれたソファでは、気の合う入居者同士が座って会話をされている光景が見られた。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していたベッドや椅子などを持ち込んでいる入居者もあり、居室も趣味の作品などが飾られ、ホームでの活き活きとした生活が感じられる。 | | |

 は、重点項目。

グループホームけんとく(A棟)

自己評価票

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|--------------------|---|
| 理念に基づく運営 1 理念の共有 | | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。 | | |
| 2 地域との支えあい | | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ホームで作って採れた野菜等をあげたり、行事等への参加を呼びかけている。 | | 一緒に楽しめるような流しソーメンなどの行事の機会を更に増やしていきたい。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、地域の法話会に参加したり、公民館行事にも参加している。 | | 地元の銀行や商店などのゴミ拾いや草むしりなどを通じて交流するように努めている。 |
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議を通じて奉仕活動や防災訓練などに参加していくよう話し合っている。 | | 町内会の行事等に積極的に参加し、ホームとして出来ることをアピールして、更に町内会行事等への参加をすすめていきたい。 |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回指摘事項に対して面会時間制限の解除や出納帳の確認サインについて改善した。また施設や地域に対する存在のアピールに関しても少しずつではあるが、改善の方向で取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見で「月間行事ボードの設置」などのサービス向上に活かしている。 | | 参加者が固定化してきたりすることの対策として昼食試食会の実施等、色々と工夫し、参加者の和を上げていきたい。 |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|--------------------|--|
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 福井市介護サービス事業者連絡会の機会に福井市職員との話し合いをもっている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見制度の資料を備え付け、いつでも利用者に応じて活用できるようにしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴時に全身観察を行い、虐待の早期発見に努めている。 | | 高齢者虐待防止法等の講習会について積極的に参加していきたい。 |
| 4 理念を实践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。 | | 利用者や家族の不安や疑問を尋ねるだけでなく、会話から汲み取れるようなスキルを身につけていきたい。 |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時を利用して暮らしぶりなどを伝え、病変があればその都度家人に連絡している。金銭管理は出納帳に記入し、家人の確認をもらっている。 | | 職員の異動については報告をしていないため、今後行っていきたい。 |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 現場で管理者が職員の意見をその都度聞き、管理者がその場で判断できるものと運営者に決裁を仰ぐものとを区別して反映させるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 3ユニットで事業を行っているため、勤務調整において柔軟な対応がしやすい。 | | |
| 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|--------------------|---|
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部への研修参加や看護勉強会や介護勉強会の定期開催により学ぶ機会を設けている。 | | |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福井市介護サービス事業者連絡会やグループホームの会合に参加することで同業者との情報交換等を行っている。 | | |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 年4回の親睦会行事を開催している。またホーム内に職員が利用者と離れて休息できる場所を設けている。 | | |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | じっくりと話のできる環境で本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。 | | |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所の相談時に本人も含め、十分に話を聞き安心してもらえるように努力している。また本人の前では話しにくい場合には家族からの本音を聞けるように本人を離して相談を受けたりしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談があるとグループ内の地域連携室にも連絡し、利用者様にとって一番良い環境を考えている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所前には必ず説明をして見学をしていただき、しばらく職員と家族のもとでフロアにて過ごしていただくようにしている。 | | 不安などの軽減から職員が付き添い、声かけや見守りの中で行動パターンや考え方を把握して早く馴染めるように努めている。 |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 台所、畑仕事など本人の得意な分野を活かして1人1人が意欲を持って楽しく過ごしていただけるような関わりをもっている。また得意とする分野において先生役になっていただく事もある。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|--------------------|--|
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 半年に一度、家族と職員とでカンファレンスを開き、現状と今後のケア方針を話し合っている。また途中の経過報告についても面会時に行っている。 | | 今以上に家族の方との話し合いの場を多く持ち、関わりを深めていきたい。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入所相談時や入居時に家族や本人と十分に話し合いをして本人の暮らしぶりや家族との関係を聞き、より良い関係作りに努めている。 | | 家族との関係が薄れていくことがないように支援していきたい。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場所をケアプランに上げている。自分の家や畑などを訪ねるようにしている。 | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 仲の良い人との関係作りや孤立しないようにテーブルの配置や座る場所を考えたり、スタッフがなかに入っより関係作りに努めている。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 家族から相談を受けたときにはその都度、対応している。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 1 一人ひとりの把握 | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いに合わせた暮らしぶりが行えるように努めている。困難な場合にはケースカンファレンスにて本人が何を望んでいるかを十分に考えて検討している。 | | |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。 | | センター方式を更に充実させ、今以上に暮らしぶり等の情報把握に努めていきたい。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。 | | |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより作成している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|---|---|--------------------|---|
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに基づき、実施・結果などの記録を記入し、今後の介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々々の要望に対して柔軟な対応を行っている。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティア、消防、近所の方達の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。 | | ボランティア活動を近所の高校に協力依頼し、利用者の暮らしを充実させていきたい。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業者と相談し、他のサービスを利用するなどの支援をおこなっているが、少数である。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|--------------------|---|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | <p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p> | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。</p> | | <p>接遇に関しては取り組んではいるものの、今後更に向上していくために職員自身の意識向上に努めていきたい。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> | <p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>突然の買い物希望に対応できない時や職員の都合から入浴時間を変更することがある。</p> | | <p>ボランティアなどの協力を得ながら今以上に一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行っていきたい。</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p> | | |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。</p> | | |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>おやつや飲み物については本人の好むものが取れるように支援している。ただし飲酒についてはご遠慮いただき、喫煙については決められた場所にてお願いしている。</p> | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|---|--|--------------------|--|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 本人の排泄パターンに合わせて声かけや紙パンツを選んでいる。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外には毎日入れるようにしており、本人の希望やタイミングにて朝から入ることも行っている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事など楽しめることを支援している。 | | 自己主張の少ない方への楽しみなども理解し、支援していけるようにしていきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | サーカスや小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。 | | 本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。 |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|---|------------------|----------------------------------|
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会のもと、拘束しないケアに取り組んでいる。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は日常はかけているが、掃除の時間や草むしりの時などはかけないようにしている。 | | センサーなどの取り付けにより、開放時間を増やしていきたい。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの状態に合わせて物品を持っていただいたりしているが、場合によっては職員管理をする場合がある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。 | | |
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。 | | |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の防火訓練を実施するとともに地区の防災訓練にも参加している。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と話し合ったりベッド柵を拒否する方なども話し合いのもとで対応策を検討している。 | | 決して職員サイドで決めることなく、話し合いを持つことを徹底する。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|--|--------------------|---|
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で磨けない方はいないが、義歯の洗浄も行っている。 | | |
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士によってバランスの取れた食事メニューが作られている。また水分量や食事量をチェックしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた花や飾り物を置いている。 | | |
| 82 | 共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 所々にベンチやソファを配置したり、冬にはコタツも用意して思い思いに過ごせるようにしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた鏡や家族の写真、仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。 | | 家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|--------------------|------------------------------------|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。 | | 失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。 |
| 87 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 中庭で食事をしたり、畑や花壇による野菜作りなどを行っている。 | | |
| 項目番号 | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | | |
| サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない | | |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない | | |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |

| | | |
|-----|---|---|
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りに力を入れて取り組んでいます。

自己評価票

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|--------------------|---|
| 理念に基づく運営 1 理念の共有 | | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。 | | |
| 2 地域との支えあい | | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ホームで作って採れた野菜等をあげたり、行事等への参加を呼びかけている。 | | 一緒に楽しめるような流しソーメンなどの行事の機会を更に増やしていきたい。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、地域の法話会に参加したり、公民館行事にも参加している。 | | 地元の銀行や商店などのゴミ拾いや草むしりなどを通じて交流するように努めている。 |
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議を通じて奉仕活動や防災訓練などに参加していくよう話し合っている。 | | 町内会の行事等に積極的に参加し、ホームとして出来ることをアピールして、更に町内会行事等への参加をすすめていきたい。 |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回指摘事項に対して面会時間制限の解除や出納帳の確認サインについて改善した。また施設や地域に対する存在のアピールに関しても少しずつではあるが、改善の方向で取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見で「月間行事ボードの設置」などのサービス向上に活かしている。 | | 参加者が固定化してきたりすることの対策として昼食試食会の実施等、色々と工夫し、参加者の和を上げていきたい。 |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|--------------------|--|
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 福井市介護サービス事業者連絡会の機会に福井市職員との話し合いをもっている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見制度の資料を備え付け、いつでも利用者に応じて活用できるようにしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴時に全身観察を行い、虐待の早期発見に努めている。 | | 高齢者虐待防止法等の講習会について積極的に参加していきたい。 |
| 4 理念を实践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。 | | 利用者や家族の不安や疑問を尋ねるだけでなく、会話から汲み取れるようなスキルを身につけていきたい。 |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時を利用して暮らしぶりなどを伝え、病変があればその都度家人に連絡している。金銭管理は出納帳に記入し、家人の確認をもらっている。 | | 職員の異動については報告をしていないため、今後行っていきたい。 |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 現場で管理者が職員の意見をその都度聞き、管理者がその場で判断できるものと運営者に決裁を仰ぐものとを区別して反映させるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 3ユニットで事業を行っているため、勤務調整において柔軟な対応がしやすい。 | | |
| 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|--------------------|---|
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部への研修参加や看護勉強会や介護勉強会の定期開催により学ぶ機会を設けている。 | | |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福井市介護サービス事業者連絡会やグループホームの会合に参加することで同業者との情報交換等を行っている。 | | |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 年4回の親睦会行事を開催している。またホーム内に職員が利用者と離れて休息できる場所を設けている。 | | |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている | じっくりと話のできる環境で本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。 | | |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている | 入所の相談時に本人も含め、十分に話を聞き安心してもらえるように努力している。また本人の前では話しにくい場合には家族からの本音を聞けるように本人を離して相談を受けたりしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談があるとグループ内の地域連携室にも連絡し、利用者様にとって一番良い環境を考えている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所前には必ず説明をして見学をしていただき、しばらく職員と家族のもとでフロアにて過ごしていただくようにしている。 | | 不安などの軽減から職員が付き添い、声かけや見守りの中で行動パターンや考え方を把握して早く馴染めるように努めている。 |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 意見を尊重し、台所や畑など得意なことを活かし、楽しく過ごしていただけるように関わっている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|--------------------|--|
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 半年に一度、家族と職員とでカンファレンスを開き、現状と今後のケア方針を話し合っている。また途中の経過報告についても面会時に行っている。 | | 今以上に家族の方との話し合いの場を多く持ち、関わりを深めていきたい。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入所相談時や入居時に家族や本人と十分に話し合いをして本人の暮らしぶりや家族との関係を聞き、より良い関係作りに努めている。 | | 家族との関係が薄れていくことがないように支援していきたい。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場所をケアプランに上げている。自分の家や畑などを訪ねるようにしている。 | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 職員が一人ひとりの個性を把握し、それぞれに合った共同作業などの場を提供することにより協力し合い、関われる機会を設けている。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 家族から相談を受けたときにはその都度、対応している。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 1 一人ひとりの把握 | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の気持ちを尊重しながら対応に努めている。 | | 状況に応じて対応しきれない場合もあるため、更に個別の意思を聞き入れながら関わるように努めていきたい。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。 | | センター方式を更に充実させ、今以上に暮らしぶり等の情報把握に努めていきたい。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。 | | |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより作成している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|---|---|--------------------|---|
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに基づき、実施・結果などの記録を記入し、今後の介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々々の要望に対して柔軟な対応を行っている。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティア、消防、近所の方達の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。 | | ボランティア活動を近所の高校に協力依頼し、利用者の暮らしを充実させていきたい。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業者と相談し、他のサービスを利用するなどの支援をおこなっているが、少数である。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|--------------------|--|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | <p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p> | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>接遇委員会を中心に接遇アンケートの実施やお互いに注意するなどの取り組みを行っているが言葉遣いはまだ不十分である。カルテなどの記録物はその都度出し入れするように努めている。</p> | | <p>言葉遣いには絶えず職員間で注意しあうようにしていきたい。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> | <p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>ホーム側の業務が中心となりがちである。</p> | | <p>ホームの業務が中心となりつつもその中で変えられる事、希望に沿える事を優先するように気配りしていきたい。</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p> | | |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。</p> | | |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>おやつや飲み物については本人の好むものが取れるように支援している。ただし飲酒についてはご遠慮いただき、喫煙については決められた場所にてお願いしている。</p> | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|---|--|--------------------|--|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄パターンに沿って声かけ、見守り、介助と区別しながら行っている。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外には毎日入れるようにしており、本人の希望やタイミングにて朝から入ることも行っている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事など楽しめることを支援している。 | | 自己主張の少ない方への楽しみなども理解し、支援していけるようにしていきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | サーカスや小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。 | | 本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。 |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|---|------------------|----------------------------------|
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会のもと、拘束しないケアに取り組んでいる。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は日常はかけているが、掃除の時間や草むしりの時などはかけないようにしている。 | | センサーなどの取り付けにより、開放時間を増やしていきたい。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの状態に合わせて物品を持っていただいたりしているが、場合によっては職員管理をする場合がある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。 | | |
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。 | | |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の防火訓練を実施するとともに地区の防災訓練にも参加している。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と話し合ったりベッド柵を拒否する方なども話し合いのもとで対応策を検討している。 | | 決して職員サイドで決めることなく、話し合いを持つことを徹底する。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|--|--------------------|---|
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で磨けない方はいないが、義歯の洗浄も行っている。 | | |
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士によってバランスの取れた食事メニューが作られている。また水分量や食事量をチェックしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた花や飾り物を置いている。 | | |
| 82 | 共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やフロアに所々にソファーやベンチ、椅子を置くとともに本棚の設置をしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッドやタンス等はこちらで用意したものであるが、家人や本人の写真を飾ったり、本人の馴染みのある小物などで居心地の良い空間を提供できるように心がけている。 | | 家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|--------------------|------------------------------------|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。 | | 失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。 |
| 87 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 中庭で食事をしたり、畑や花壇による野菜作りなどを行っている。 | | |
| 項目番号 | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | | |
| サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない | | |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない | | |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |

| | | |
|-----|---|---|
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りに力を入れて取り組んでいます。

自己評価票

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|--|---|--------------------|---|
| 理念に基づく運営 1 理念の共有 | | | | |
| 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 一人一人が地域の中でその人らしく暮らしていけるように独自の理念をつくり、毎朝唱和している。 | | |
| 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実現に向けた取り組みが職員の共通の目標として常に意識され、ケアプランにも盛りこんでいる。 | | |
| 3 | 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | 申込時や運営推進会議時などに説明を入れたり、フロア内では誰もがいつでも見れるように掲示してある。 | | |
| 2 地域との支えあい | | | | |
| 4 | 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | ホームで作って採れた野菜等をあげたり、行事等への参加を呼びかけている。 | | 一緒に楽しめるような流しソーメンなどの行事の機会を更に増やしていきたい。 |
| 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、地域の法話会に参加したり、公民館行事にも参加している。 | | 地元の銀行や商店などのゴミ拾いや草むしりなどを通じて交流するように努めている。 |
| 6 | 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 運営推進会議を通じて奉仕活動や防災訓練などに参加していくよう話し合っている。 | | 町内会の行事等に積極的に参加し、ホームとして出来ることをアピールして、更に町内会行事等への参加をすすめていきたい。 |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回指摘事項に対して面会時間制限の解除や出納帳の確認サインについて改善した。また施設や地域に対する存在のアピールに関しても少しずつではあるが、改善の方向で取り組んでいる。 | | |
| 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 活発な意見交換が行われており、話し合いにより出た意見で「月間行事ボードの設置」などのサービス向上に活かしている。 | | 参加者が固定化してきたりすることの対策として昼食試食会の実施等、色々と工夫し、参加者の和を上げていきたい。 |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|--------------------|--|
| 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 福井市介護サービス事業者連絡会の機会に福井市職員との話し合いをもっている。 | | |
| 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護や成年後見制度の資料を備え付け、いつでも利用者に応じて活用できるようにしている。 | | |
| 11 | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴時に全身観察を行い、虐待の早期発見に努めている。 | | 高齢者虐待防止法等の講習会について積極的に参加していきたい。 |
| 4 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用契約時や解約時には十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。 | | 利用者や家族の不安や疑問を尋ねるだけでなく、会話から汲み取れるようなスキルを身につけていきたい。 |
| 13 | 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や介護相談員の受け入れを行っている。意見や不満を受けたときには必ずカンファレンスを開き、話し合いの中で改善に取り組んでいる。 | | |
| 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時を利用して暮らしぶりなどを伝え、病変があればその都度家人に連絡している。金銭管理は出納帳に記入し、家人の確認をもらっている。 | | 職員の異動については報告をしていないため、今後行っていきたい。 |
| 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議のなかで意見を伺ったり、苦情相談窓口や意見箱を設置し、意見や苦情を受けた時は早期にカンファレンスを開いて改善するようにしている。 | | |
| 16 | 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 現場で管理者が職員の意見をその都度聞き、管理者がその場で判断できるものと運営者に決裁を仰ぐものとを区別して反映させるようにしている。 | | |
| 17 | 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 3ユニットで事業を行っているため、勤務調整において柔軟な対応がしやすい。 | | |
| 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員異動に関してはなるべく最小限となるように配慮している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|---|---|--------------------|---|
| 5 人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部への研修参加や看護勉強会や介護勉強会の定期開催により学ぶ機会を設けている。 | | |
| 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 福井市介護サービス事業者連絡会やグループホームの会合に参加することで同業者との情報交換等を行っている。 | | |
| 21 | 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 年4回の親睦会行事を開催している。またホーム内に職員が利用者と離れて休息できる場所を設けている。 | | |
| 22 | 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 日々の報告での聞き取りや年2回の人事考課を実施している。 | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている | じっくりと話のできる環境で本人の希望や求めている事、不安などを聞き受けとめるようにしている。 | | |
| 24 | 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている | 入所の相談時に本人も含め、十分に話を聞き安心してもらえるように努力している。また本人の前では話しにくい場合には家族からの本音を聞けるように本人を離して相談を受けたりしている。 | | |
| 25 | 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所の相談があるとグループ内の地域連携室にも連絡し、利用者様にとって一番良い環境を考えている。 | | |
| 26 | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入所前には必ず説明をして見学をしていただき、しばらく職員と家族のもとでフロアにて過ごしていただくようにしている。 | | 不安などの軽減から職員が付き添い、声かけや見守りの中で行動パターンや考え方を把握して早く馴染めるように努めている。 |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 他のユニットに比べ出来ない事は多いが、出来るだけ一緒に行うように努め、本人の思いを考えながら過ごしている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|--------------------|--|
| 28 | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会時やプラン更新時には現状報告やケア方針を相談している。 | | 今以上に家族の方との話し合いの場を多く持ち、関わりを深めていきたい。 |
| 29 | 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入所相談時や入居時に家族や本人と十分に話し合いをして本人の暮らしぶりや家族との関係を聞き、より良い関係作りに努めている。 | | 家族との関係が薄れていくことがないように支援していきたい。 |
| 30 | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場所をケアプランに上げている。自分の家や畑などを訪ねるようにしている。 | | |
| 31 | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 皆が興味を持てる様な事の時間を設けて、関われる様に努めている。 | | |
| 32 | 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 家族から相談を受けたときにはその都度、対応している。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | 1 一人ひとりの把握 | | |
| 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思いを尊重し、希望・意向の把握に努めている。 | | 更に個別的な対応を心がけ、本人の思いに近づけていけるようにしていきたい。 |
| 34 | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族や本人からの話し合いによる情報収集とそれらの情報をセンター方式にて把握するようにしている。 | | センター方式を更に充実させ、今以上に暮らしぶり等の情報把握に努めていきたい。 |
| 35 | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の申し送りの情報や連絡帳をもとに心身の状態や行動パターンなどを把握するようにしている。 | | |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成時にはある程度の計画を作成し、その後本人や家族との話し合いにより作成している。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|---|---|--------------------|---|
| 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 変化に応じて本人、家族らと話し合いのうえ、計画を見直し、作成している。 | | |
| 38 | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケアプランに基づき、実施・結果などの記録を記入し、今後の介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | グループ内に病院、診療所、老健施設、及び種々の介護事業所を有することからその時々々の要望に対して柔軟な対応を行っている。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | ボランティア、消防、近所の方達の協力を得ながら、行事や生活に活かしている。 | | ボランティア活動を近所の高校に協力依頼し、利用者の暮らしを充実させていきたい。 |
| 41 | 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 本人の意向などに応じ、地域の他のケアマネージャーや事業者と相談し、他のサービスを利用するなどの支援をおこなっているが、少数である。 | | |
| 42 | 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | グループ内に地域包括支援センターがあるため、相談等に応じてもらえ、協働しやすい環境にある。 | | |
| 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及び家族の希望を受け入れ、かかりつけ医による適切な医療を提供していただける関係を築いている。 | | |
| 44 | 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | グループ内に隣接して認知症の専門医療機関があり、診断、治療を受けている。 | | |
| 45 | 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 日勤帯は看護師が勤務しており、夜勤帯には緊急連絡網によって健康管理や医療的対応を取っている。 | | |
| 46 | 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 早期の入退院にむけて病院との情報交換を密に行っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|--|--------------------|---|
| 47 | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> | <p>できるだけ早い段階において本人や家族やかかりつけ医らと今後の方針等について話し合っている。</p> | | |
| 48 | <p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> | <p>終末期に対する指針はあるが、グループ内に医療機関もある為、今現在積極的な取り組みは行っていない。</p> | | |
| 49 | <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> | <p>移り住む先のスタッフとの情報交換や本人、家族との話し合いを充分に行い、ダメージやレベル低下を防ぐように努めている。</p> | | |
| <p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> | | <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p> | | |
| 50 | <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | <p>言葉かけに対しては接遇委員会が中心となって取り組んでいる。個人情報に関してはマニュアルによる取り組みを行っている。</p> | | <p>接遇に関しては取り組んではいるものの、今後更に向上していくために職員自身の意識向上に努めていきたい。</p> |
| 51 | <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p> | <p>本人のペースに合わせ、無理にこちらの意見を通さずに普段から注意深く観察し、馴染みの関係を築いている。</p> | | |
| 52 | <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | <p>ホーム側の都合で一人ひとりの希望を十分に聞いてあげることができないことがある。</p> | | <p>ボランティアなどの協力を得ながら今以上に一人ひとりのペース、希望に沿った支援を行っていきたい。</p> |
| <p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p> | | | | |
| 53 | <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | <p>本人の希望する理美容店に送迎をしている。また化粧などは家族の協力を得ながら希望する方には行えるように支援している。</p> | | |
| 54 | <p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | <p>中庭で食事をする事で雰囲気を変えたり、畑で採れたものを料理したりしている。</p> | | |
| 55 | <p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | <p>おやつや飲み物については本人の好むものが取れるように支援している。ただし飲酒についてはご遠慮いただき、喫煙については決められた場所にてお願いしている。</p> | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------------|---|--|--------------------|--|
| 56 | 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している | そわそわされたら、さりげなくトイレ誘導したり一人ひとりのパターンを活かして気持ちよく排泄できるように支援している。 | | |
| 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日曜日以外には毎日入れるようにしており、本人の希望やタイミングにて朝から入ることも行っている。 | | |
| 58 | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | ソファや畳の間、自室においてその方の生活習慣に合わせた休息がとれるように支援している。また本人持ちの枕や布団にこだわる方にはそれを使っていたり、不安なときにはスタッフと一緒に休んだりしている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの生活歴に合わせて買い物、散歩、草むしり、畑仕事など楽しめることを支援している。 | | 自己主張の少ない方への楽しみなども理解し、支援していけるようにしていきたい。 |
| 60 | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望や家族の意見を聞きながらお金を所持していただき、買い物などに出かけている。 | | |
| 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ケアプラン以外にもその日の希望に応じて外出したい方には出かけるように支援している。 | | |
| 62 | 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | サーカスや小旅行など、家族とともに出かけられるように計画や支援を行っているがスタッフとの個別的な外出は少ない。 | | 本人の希望に対し、家族の協力を更に得ることによって今以上にかけられるように支援していきたい。 |
| 63 | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や葉書などのやりとりが行えるように支援している。電話に関してはいつでも出来る状態であるが、電話機の操作に戸惑いを見ることがあり、その際にはスタッフが介助することもある。 | | |
| 64 | 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 入居時に家族は勿論の事、馴染みの方についてもいつでも面会に来ていただくように説明とお願いをしている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいる項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|--|---|------------------|----------------------------------|
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会のもと、拘束しないケアに取り組んでいる。 | | |
| 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関の鍵は日常はかけているが、掃除の時間や草むしりの時などはかけないようにしている。 | | センサーなどの取り付けにより、開放時間を増やしていきたい。 |
| 67 | 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | プライバシーに配慮しながら昼夜を通して利用者の所在を把握するために見回りを行っている。特に情緒不安定などときには常に接しているように心がけている。 | | |
| 68 | 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 一人ひとりの状態に合わせて物品を持っていただいたりしているが、場合によっては職員管理をする場合がある。 | | |
| 69 | 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止に関する教育の受講によりとりにくんでいる。また年2回の防火訓練により学んでいる。 | | |
| 70 | 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 教育委員会を通じて年1回救急対応の実技訓練を行っている。 | | |
| 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回の防火訓練を実施するとともに地区の防災訓練にも参加している。 | | |
| 72 | リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 転倒リスクについてチェックリストを作成し、家族と話し合ったりベッド柵を拒否する方なども話し合いのもとで対応策を検討している。 | | 決して職員サイドで決めることなく、話し合いを持つことを徹底する。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援 | | | | |
| 73 | 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 体調の変化について発見後すぐに病院受診の手配を行うようにしている。また申し送りや連絡帳を利用してスタッフ間での情報の共有を図っている。 | | |
| 74 | 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 目的等が記載された処方箋をカルテの裏に綴じている。また特別な薬については連絡帳や申し送りにて伝達、注意を図っている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|--|--|--------------------|---|
| 75 | 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 毎日、排便状態を確認して十分な水分補給と運動に取り組んでいる。更に排便困難な方には薬を使用している。 | | |
| 76 | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後の歯磨きの励行を支援している。ご自身で磨けない方はいないが、義歯の洗浄も行っている。 | | |
| 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士によってバランスの取れた食事メニューが作られている。また水分量や食事量をチェックしている。 | | |
| 78 | 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種や対応マニュアルを備え付けている。また感染に関する教育も受講している。 | | |
| 79 | 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理用具は使用后、殺菌庫にて管理している。生鮮食料品については毎日、新鮮なものを購入している。 | | |
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 親しみやすい看板や花などを植えるなどの工夫をしている。 | | |
| 81 | 居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた花や飾り物を置いている。 | | |
| 82 | 共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に椅子を用意したり、冬にはコタツも用意して思い思いに過ごせるようにしている。 | | |
| 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使用していた鏡や家族の写真、仏壇など本人や家族と相談しながら環境に配慮している。 | | 家人にも協力をお願いしているが、お部屋が寂しい場合もあるため、より家族との話し合いを深めて環境づくりに支援していただけるようにアプローチしていきたい。 |
| 84 | 換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 冷暖房など、こまめに温度調整につとめている。また換気は1日2回のほか、悪臭にも気をつけている。 | | |

| 項目番号 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組んでいきたい項目) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|--|---|--------------------|------------------------------------|
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー構造で手すり、ナースコール、入居者に合わせたトイレや手洗いの高さに配慮している。 | | |
| 86 | わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 入居者の自分で出来ることは行っていただき、出来ないことはさりげなくお手伝いをするようにしている。 | | 失敗や混乱を防ぐためにもゆっくりと優しく接していくように努めている。 |
| 87 | 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 中庭で食事をしたり、畑や花壇による野菜作りなどを行っている。 | | |
| 項目番号 | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | | |
| サービスの成果に関する項目 | | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない | | |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない | | |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない | | |

| | | |
|-----|---|---|
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない |
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの思いを大切に、家族を含めた話し合いの時間を充分とるようにしています。日中は看護師が常に配置されており、夜間は緊急連絡網により近隣の介護老人保健施設や訪問看護の看護師が駆けつけることとなっています。またグループ内に病院や精神科クリニックもあるため、医療の面では安心いただける体制となっております。ボランティアの受け入れを積極的に行ったり、地域の活動に積極的に参加することで地域の中での関係作りに力を入れて取り組んでいます。